

# 平成26年度 佐渡市総合学習部 活動報告

部長 山本 博文

## 1 「佐渡学」の推進

佐渡市では「佐渡市学校教育基本構想」を定め、「佐渡学」を推進している。「佐渡学」では、「佐渡の自然，文化，歴史を学ぶことで，郷土を愛し，夢と誇りをもつ子どもの育成」を目指している。

そこで，今年度の佐渡市総合学習部では，世界遺産登録を目指す佐渡の鉱山遺跡群にスポットを当て，その知見を深めていく目的で研修会を実施した。

## 2 総合学習部研修会 講演会

- ① 講師 佐渡市世界遺産推進課 宇佐美 亮 様
- ② 演題 「佐渡を世界遺産に！金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」

### ア 西三川砂金山

佐渡島最古の砂金山である。「今昔物語集」「宇治拾遺物語」に記述が見られることから，平安時代後期から砂金の採取が行われていたと思われる。

砂金採取方法は，次の3つが考えられる。

- ① 川に流れ出た砂金を採取
- ② 地表面の堆積層を掘削して採取
- ③ 山肌を削って崩して採取（「大流し」）

明治5年の閉山後も離散せず，農業に転換することで集落を維持（笹川地区）した。

### イ 鶴子銀山・新穂銀山

1542年，越後の商人により発見される。戦国時代末から江戸時代初頭にかけて最盛期を迎える。「鶴子千軒」と言われるほど家が建ち並ぶ。

採掘技術の進歩が見られた。露頭掘り（地表面を採掘）→ひ追い掘り（鉱脈に沿って採掘）→横相（坑道を掘って地下の鉱脈を採掘）

相川金銀山の発見につながる遺跡として重要な位置を占める。

### ウ 相川金銀山

佐渡だけでなく日本を代表する金銀山である。鮎河で銀がわき上がったことから金銀鉱脈が発見された。江戸時代初頭の最盛期には，約300カ所の坑道が掘られ，年間銀1万貫（約37.5トン）が江戸へ送られていた。

明治時代には三菱が経営を行う。昭和10年代には大增産体制がとられ様々な施設が建設される。昭和15年には1538kgを産出（金）し，過去最大となった。当時の施設は今も多く残っている。



## 3 課題

当部は所属部員に管理職や総合を担当していない部員が多く，ここ数年，総合部単独の授業研究会を実施していない。また，昨年度から佐渡学授業研究発表会がなくなり，授業を参観する機会が減った。今後も，このような状況は変わらないことが予想される。

今後，授業研究会を実施する方法を探るとともに，総合的な学習の時間の単元開発に生かせる研修会や情報発信を行い，各学校の「佐渡学」の充実を図る取組を行っていきたい。